

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1

開催地：球磨村神瀬地区

平成 19 年 5 月 14 日（月）、球磨村神瀬地区を皮切りに「くまがわ・明日の川づくり報告会」が始まりました。

神瀬地区多目的集会施設にて開催された同報告会には、約 100 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

村内	93 名
村外	5 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・基本高水流量、計画高水流量の 7, 0 0 0 トン/秒、4, 0 0 0 トン/秒という値が、どのくらいの数字なのか、感覚がつかめない。「仮にそのような洪水が来たら、この場所ではこの高さまで浸かる。」など、分かりやすく説明して欲しい。
- ・新しい降雨データが加わっても基本高水流量が 7, 0 0 0 トン/秒で変わっていない。川辺川ダムの方針の数値にあわせてのではないのか。
- ・嵩上げ、掘削、引堤それぞれ単独でなく、遊水池も考慮して、いろいろな手法を組み合わせで検討すべきである。

【球磨川の治水対策について】

- ・昭和 40 年代から何度も浸水している箇所がある。今後、どのような形で整備を進めていく予定か。
- ・瀬戸石ダム湖内の堆積土砂の撤去について、何とかならないか。
- ・宅地の嵩上げによって浸水被害は軽減したが、段差ができてヘドロがたまったり、出水時に水が逆流するなどの問題が生じている。相談しても誠意ある対応がみられなかった。
- ・宅地の嵩上げによる整備を進めるのが良い。
- ・消防団（水防団）の団員数も減少傾向にある。ダムでも掘削でも堤防でもよいので、とにかく一刻も早く治水対策を進めて欲しい（今年中とか一年以内の短い期間）。
- ・仮に川辺川ダムをつくる場合は、いつまでにできるのか。また、事業費はいくらかかるのか。
- ・将来に負担を残さないためにも、できるだけ早く安い方法で整備をすすめて欲しい。掘削、堤防嵩上げの方が早くできるのではないのか。
- ・市房ダムの放流により災害を引き起こしたという話を聞いた。昭和 40 年の水害発生時の洪水調節の操作の実態について教えて欲しい。
- ・市房ダムの放水の情報を、できるだけ早く水防団に伝えて欲しい。

【球磨川の環境について】

- ・荒瀬ダムや瀬戸石ダムにおいて魚道の整備を行っているが、3～5 月にかけて、鮎の遡上が現在どれだけ確認できているのか。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

